

2023 年度総代会レポート

大阪大学生協学生会ためそ一班 市川虹羽

1. 2023 年度総代会の報告

2023 年 5 月 27 日（土）、今年度の総代会が開催されました。総代数は 123 名、そのうち 102 名（本人出席 13 名、書面出席 89 名）が総代会に実出席されました。各議案の提案・審議の後、すべての議案は可決されました。総代会に加え、今年度は数年ぶりに分科会と懇親会を実施し、学生と生協職員をはじめとする、生協にかかわる組合員の意見交流の場としました。私は、総代会の書記を務めさせていただきましたが、実際に総代会や分科会、懇親会に参加して感じたことをレポートしていきたいと思います。

2. 実際、総代会ってどんな雰囲気？

当日は福利会館 4 階の広い空間に机が並べられており、総代や理事の方が整列していました。その姿は壮観で、とても気が引き締まります。多くの方が出席する中、司会の声かけによって総代会がスタートしました。司会・議長・書記を担当したのは、すべて阪大生。出席者も半分以上が学生で構成されており、予想以上に学生が多かったことに驚きました。

総代会では、まず大阪大学生協から提案される予算や活動方針についての報告と学生委員会から前年度の活動報告が発表されました。議案と聞くと最初は堅苦しい印象がありましたが、報告をする方がとてもわかりやすく話してくださいました。私たち学生委員会は議案書ダイジェストという、総代会での議案の内容をわかりやすくまとめた冊子を作成しました。当日参加していた方にこの冊子を配布させていただきましたが、特に学生の方はこの冊子を片手に話を聞いている方も多く見受けられました。この議案書ダイジェストが少しでもみなさんの理解の助けになっていると嬉しいです。その後の質疑応答では、学生のお二人から質問がありました。内容は食堂の混雑に対する生協の対策に関するものと、図書館の閉館時間が早まったことについて大学の光熱費の負担先はどこにあるのかというもの。ここで身近な話題への疑問が解決されていきました。そして分科会開催、投票を行なって総代会はお開きとなりました。最後には懇親会にも参加してきました。総代会自体はきっちりとした真剣な雰囲気の中行われますが、内容がわからないからと置いてきぼりになるということではなく、分科会や懇親会を通して生協との距離がぐっと縮まった 1 日でした。

3. 分科会のリバイバル

分科会とは、生協のサービスや各キャンパスについてテーマを 1 つ決め、生協職員の方と組合員で意見交換をする会のこと。堅苦しい雰囲気はなく、生協職員さんと学生、先生たちが和気藹々とお話をしていました。私は豊中キャンパスの食堂・購買というテーマに参加してきました。「多くの学生は生協といえば食堂だと思っていて、他のサービスについては知らない人も多いと思います。」と伝えると、職員の方からは、「色々なサービスがあるから、食堂だけでなく他のサービスも利用したいと思ってもらいたいな。」とのこと。学生としての意見を伝えると興味津々に聞いてくださるので、楽しく発言することができました。後日、教習所の申し込みで生協サービスカウンターを訪れると、分科会でお話しした職員さんと再会！挨拶ができて、不思議な優越感がありました。

4. 懇親会の様子

こちらも数年ぶりに復活した懇親会。現在受付停止している学内でのパーティの試食会を兼ねた会として、豊中キャンパス生協食堂の一つであるかさねで開催しました。おしゃべりな一口料理や、学生ウケ間違いなし！なメニューが立ち並びました。思い思いの料理を取って食べながら、生協職員さんや学生同士、大学院生さんとのんびり会話を楽しみました。分科会とはまた違う雰囲気で、当日の感想やどの料理が美味しかったかなどを話しながら距離感を縮めることができ、これからの活動のアドバイスももらいました。たくさん

話をしましたが、何よりも、美味しい！楽しい！と思った会でした。

5. 最後に

生協職員の方々は、学生や教職員のためにどんなサポートができるか考えてくれている存在でした。だから総代会は決して堅苦しいばかりでなく、日ごろの思いを伝えるためにも私たち学生にとって必要な会でした。来年は、さらに多くの学生や教員の方々と参加したいと心から思います。ここまでご覧くださり、ありがとうございました！

懇親会後の様子

